

性教育と生殖器崇拜

堀上, 英紀

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 自然科学編 / 法政大学教養部紀要. 自然科学編

(巻 / Volume)

125

(開始ページ / Start Page)

85

(終了ページ / End Page)

93

(発行年 / Year)

2003-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004675>

性教育と生殖器崇拜

堀 上 英 紀

§1 序 論

東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会による『性意識・性行動に関する2002年調査報告書』（文献1）によれば、性体験の若年化が進む中、都内の高校3年生女子の半数近くが性交を経験済みである（図1）という。さらに、経験後、いつも避妊した高3女子は約2割と過去最低らしい。報告書は、望まぬ妊娠により無惨な中絶を余儀なくすることのないように、事前の教育が必要という。すなわち、調査した教師らはエイズなどの性行為感染症のリスクだけでなく、異性との関わり方や人間尊重精神を学ぶ教育が必要と指摘している。

この調査結果は、日本性教育協会が1999年に実施した『第5回青少年の性行動全国調査報告』（文献2）を裏付けるもの（図2）でもある。

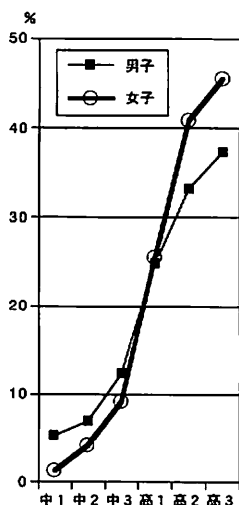


図1 性交経験累積率

(%)

経験の種類	学校	男 子					女 子				
		1974年	1981年	1987年	1993年	1999年	1974年	1981年	1987年	1993年	1999年
射撃・月経	中学			37.8	46.7	52.9			75.0	80.3	83.4
	高校		87.1	83.8	86.0	88.6		97.2	95.3	95.1	96.3
	大学		95.4	92.0	91.3	97.2		98.4	98.4	98.0	98.0
性的関心	中学			52.5	53.9	59.2			45.5	48.6	49.2
	高校		92.8	89.6	89.9	90.5		75.0	71.4	70.5	76.9
	大学		98.2	93.9	96.7	99.4		89.0	84.5	87.9	89.5
デート	中学			11.1	14.4	23.1			15.0	16.3	22.3
	高校	33.6	47.1	39.7	43.5	50.4	57.5	51.5	49.7	50.3	55.4
	大学	73.4	77.2	77.7	81.1	81.9	74.4	78.4	78.8	81.4	81.9
マスターベーション	中学			30.0	33.0	41.6			6.9	10.1	7.7
	高校	84.1	77.1	81.2	80.7	86.1	21.6	17.2	10.7	12.6	19.5
	大学	90.4	93.2	92.2	91.5	94.2	28.1	28.6	21.1	25.8	40.1
キス	中学			3.6	6.4	13.2			6.6	7.6	12.2
	高校	26.0	34.5	23.1	28.3	41.4	21.8	26.3	25.3	32.3	42.9
	大学	45.2	53.2	59.4	68.4	72.1	38.9	48.6	49.7	63.1	63.2
ベッチング	中学			3.9					2.6		
	高校	13.9	13.1	17.8	18.2		9.6	15.9	14.7	16.5	
	大学	45.2	40.3	53.3	60.6		17.9	29.9	34.1	42.8	
性交	中学			2.2	1.9	3.9			1.8	3.0	3.0
	高校	10.2	7.9	11.5	14.4	26.3	5.5	8.8	8.7	15.7	23.7
	大学	23.1	32.6	46.5	57.3	62.5	11.0	18.5	26.1	43.4	50.5

図2 性的経験率の推移

それでは、どのような教育が、期待するような性のコントロールを可能にするのであろうか。

まずは、我が国における性教育の歴史から見ていくことにしよう。

§2 性教育の歴史

「性教育」という語が我が国で用いられたのは、1920年代のことである。1922年に初来日した米国人M. サンガーの産児制限運動に触発された生物学者山本宣治が、科学的性教育の必要性を唱え、『性教育』（1923年）を出版して、社会的悲劇を防止しようと試みたことがきっかけであった（文献3）。

しかし、大正デモクラシーの影響を受けて自由恋愛の風潮が広まるにつれ、性の純潔を守り、一夫一婦制の秩序を守る教育の必要性が呼ばれるようになった。この声が、第二次大戦後、文部省を動かし純潔教育委員会を発足（1948年）させることとなったが、学校教育の現場においては、女子には月経教育が、男子には無教育が行われたに過ぎなかった。

1970年代に入ると、高度成長時代の急激な社会的・経済的变化は、種々の面で欧米化を招き、性意識の急速な変化および性行動の若年化を引き起こした。これに対応して純潔教育に代わる、新たな教育の模索が始まり、学校教育だけでなく、家庭および地域社会と連動した性教育の必要性が主唱され、性教育という言葉が一般にも広まるようになった。

1980年以降は、国内初のエイズ患者の認定（1985）がマスコミ界をにぎわせたため、性教育はまさにエイズ予防教育の様相を呈しているようである。

§3 青少年は性教育に何を望んでいるか

ここでは、1974年以降、約6年毎に全国調査を行っている日本性教育協会『第5回青少年の性行動全国調査報告』（以後、第5回調査報告書と略記）を用いて、青少年が性に関して何を知らたがっているか見てみよう。

図3から判るように19個の選択肢（複数選択回答可）の中で、最も多かった（30%強）のは、①エイズと性行為感染症についての知識であり、つづいて、②性交、③異性とのつきあい方である（調査対象者数5,492名、男子2,846名、女子2,646名）。

(%)

内 容	合計	全 体		中学生		高校生		大学生	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
エイズ	31.6	30.8	32.5	25.3	29.2	31.3	34.8	38.8	35.1
性感染症（性病）の知識	31.6	29.6	33.7	17.1	18.5	32.7	37.8	45.2	60.3
セックス（性交）	29.8	33.4	25.9	27.5	21.2	36.9	28.6	37.2	30.9
異性との交際の仕方	29.5	30.8	28.2	25.4	26.0	33.0	30.0	36.1	29.2
愛とは何か	29.1	32.7	25.2	24.5	24.2	32.7	25.0	46.0	28.3
男性と女性の心理や行動の違い	28.0	28.3	27.7	16.7	18.0	29.8	29.0	44.9	47.5
避妊の方法	22.9	20.3	25.6	11.6	14.6	24.5	29.8	27.9	41.8
自分の身体について	18.8	17.8	19.8	15.7	15.8	16.7	21.5	23.0	25.1
性は人生にどういう意味をもつか	14.6	15.6	13.6	13.8	11.1	13.1	11.6	22.7	24.4
思春期の心理	14.5	14.9	14.1	15.9	16.5	14.5	13.4	13.9	9.8
性欲の処理の仕方	13.7	17.7	9.4	14.2	8.1	20.0	9.1	19.7	13.1
生命誕生（受精・妊娠・出産）	12.6	10.0	15.5	8.8	12.3	9.9	17.8	12.2	17.9
性に関する不安や悩みの相談にのってくれるところ	8.8	6.9	10.9	5.8	8.2	7.8	12.4	7.2	13.5
性器のつくりと働き	8.1	12.1	3.8	12.2	2.7	11.9	2.9	12.2	8.7
男性と女性の役割	8.0	10.1	5.8	9.1	6.0	9.3	4.9	13.0	7.4
初経（月経）	6.9	8.6	5.0	6.2	6.0	9.9	4.4	10.6	3.9
二次性徴（発毛・声変わり・乳房のふくらみ）	6.5	7.9	4.9	11.3	7.4	7.2	3.0	3.4	3.7
精通（射精）	5.7	7.4	3.8	7.9	1.7	6.9	3.9	7.5	8.7
特に知りたいことはない	25.3	26.8	23.6	41.4	34.3	25.0	19.8	5.7	7.4

図3 青少年が性について知りたい内容

この結果は、時代を反映すると同時に、思春期の特徴をよく示すものと言えるが、「愛とは何か」や「人生における性の意味」がトップ10に入っている点は注目に値することである。なぜならこれらこそが、後述するように、これまでの性教育に欠けているテーマだからである。

§4 性教育の内容と生徒・学生の評価

教育現場で行われる性教育の内容に関しては、全国共通のガイドラインがないため、再び第5回調査報告書に基づいて見てみよう。図4から判るように、その内容は依然として生理学的側面に重点が置かれており、この半世紀の間、その内容は「性行為感染症の予防」と「避妊方法」を除いて、一向に進展していないようである。

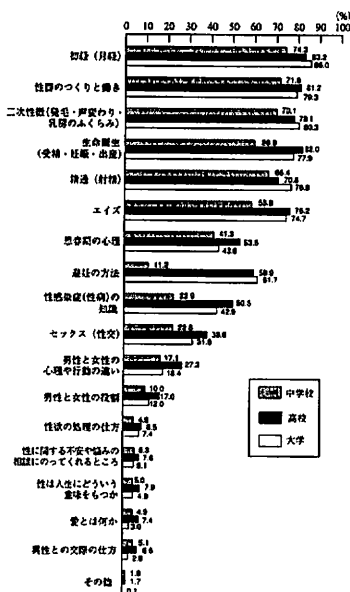


図4 性教育の内容別学習

			評価 (%)			
			非常に役に立つ	役に立つ	どちらともいえない	役に立たない
男子	中学校	1999	10.9	30.7	43.4	15.0
		前回	14.9	35.7	41.6	7.8
	高校	1999	12.6	38.9	35.0	13.5
		前回	16.8	39.6	36.8	6.8
	大学	1999	14.2	31.8	30.8	23.3
		前回	10.9	43.3	31.0	14.8
女子	中学校	1999	8.7	34.5	47.0	9.9
		前回	9.3	40.9	45.2	4.6
	高校	1999	9.5	37.8	33.5	9.1
		前回	10.9	45.3	38.1	5.7
	大学	1999	4.9	44.0	34.9	16.2
		前回	10.9	51.1	32.5	5.2

図5 性教育への評価の経年比較

一方、受講者側である生徒・学生からみた性教育に対する評価を見ると、「役に立った」と答えたのは半数に満たず、「役に立たない」が、前回 (1993年) の調査よりも増えている (図5) ようである。

§5 性教育に欠けているもの

古来より、我が国では生殖器崇拝が広く見られる。現代社会に於いては、一歩間違えば刑法に抵触せざるを得ないものが、信仰の対象になっているのはなぜであろうか。

そのことについては、以前の論文 (文献4) に書いたのだが、記紀にも見られるように性には邪悪なもの、外敵、悪病などを追い払う強い力があると考えられていたからである。いまでも日本各地に残されている道祖神は、その一つの表れである。

面白いことに、生殖器崇拝は、我が国に限られたものではなく、広く世界各

地に見られるのである。古代ギリシャでは、彫刻されたペニスを持つヘルメス神石柱（ヘルマイ）（図6）（文献5）が街角に置かれ、人々は道祖神と同じ働きを期待したのである。

また、中世ヨーロッパ（アイルランドやイギリス、フランスなど）では、城門や城壁などには石に刻んだ裸体女神Sheela na gig（図7）（文献6）がはめ込まれ、女神が自らの性器を両手で左右に広げて相手に示すことで、外敵や悪病を退散させようとしたのである。その信仰は、書物の挿絵や絵画（図8, 9）（文献7）にも見ることができる。



図6 ヘルマイ

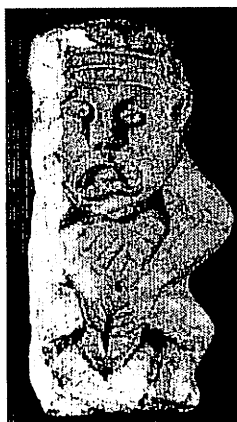


図7 Sheela na gig像



図8 C. Eisen著「La Fontaine」の挿絵



図9 民衆を導く自由の女神（Delacroix, 1830）

一方、中国の明時代には、性の力を実戦で用いた有名な記録が残されているのである。『豫変紀略卷五』（文献8）には、以下のような記述が見られる。

壬午崇禎十五年（1642）春，正月辛未朔。懷慶地震。

時賊圍開封，攻甚急，守亦甚嚴，雖張，許之守睢陽不如也。砲石如雨，中輒糜爛。賊患之，乃驅衆婦人裸而立于城下以厭之，謂之「陰門陣」。城上之砲皆倒洩而不鳴。城中將吏乃急命諸軍裸立而燃砲，謂之「陽門陣」以破之。賊之砲石亦倒洩而不鳴。異哉陣名！自蚩尤，黃巢以來，攻戰多矣，未嘗聞此也。

すなわち、敵の砲撃を不発にするために、裸体の婦人や兵士を最前線に立たせたのである。

このように一般社会で見られるだけでなく、次に示すように宗教界でも生殖器崇拜が行われているのである。

周知の通りヒンズー教では、性を神聖なものと捉え、礼拝の対象としてリンガ（図10）（文献9）を祀った寺院の外壁に、ミトゥナ像（交合像）（図11）を多数彫刻したのである。この場合には、外敵などを退散させることも意図したか否かは、はっきりしない。

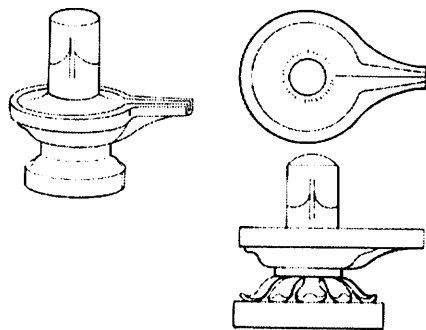


図10 リンガ



図11 ミトゥナ像

また、その流れを汲むチベット密教寺院においては、寺院の内壁に男女神の

交合図（図12）（文献10）を描き、礼拝の対象としたのである。



図12 普賢菩薩（ラマユル寺）

さらに、空海が唐より持ち帰った密教教典の一つ『大樂金剛不空真実三摩耶經 般若波羅蜜多理趣品』，いわゆる『理趣經』には，以下のような経文が見られるのである。

大興善寺三藏沙門大廣智不空奉 詔譯

…………… 說一切法清淨句門 所謂妙適清淨句是菩薩位 慾簡清淨句是菩薩位 觸清淨句是菩薩位 愛縛清淨句是菩薩位 一切自在主清淨句是菩薩位 見清淨句是菩薩位 適悅清淨句是菩薩位 愛清淨句是菩薩位 慢清淨句是菩薩位 莊嚴清淨句是菩薩位 意滋澤清淨句是菩薩位 光明清淨句是菩薩位 身樂清淨句是菩薩位 色清淨句是菩薩位 聲清淨句是菩薩位 香清淨句是菩薩位 味清淨句是菩薩位 何以故 一切法自性清淨故 般若波羅蜜多清淨 ……………

すなわち，一切のものは清淨であり，男女交合のたえなる恍惚境も，欲心をもって異性を見ることも，自慢の心も，この世のあらゆるものも，また清淨なる菩薩の境地であると説く。そして，なぜそうなのかというと，これらの欲望をはじめ，世の一切のものは，その本性が清淨なものだからである。だから，真実を見る智恵の眼を開いて，これらすべてをあるがままに眺めるならば，真

実なる智慧の境地に到達し、すべて皆清浄ならざるはない境地になるであろう（文献11）という。

一方、16世紀スペイン・カトリックの聖女テレジアの自叙伝（文献12）には、いわゆる神とのふれ合いに伴うエクスタシーが、以下のように記述されている。

第29章13 「私がこの状態にありました時、主は御心のままに、幾たびか次の幻視を私に賜いました。私は自分のそばに、左の方に、体の形を持った一位の天使を見ました。私が天使をこのように見るのは大変珍しいことです。彼らは度々現れますが、私は前の幻視のところで初めに、お話しした時のあの様式でしか彼らを見ませんでした。ところがこの幻視において、主は天使をこういう形で私に示すことをお望みになりました。彼は大きくはなく、むしろ小さかったのですが、大変美しく見えました。彼の顔は余りにも燃えるようでしたので、愛に燃える天使らの中でも、最も高位のもののように見えました。彼らは多分ケルビンと呼ばれるものでありましょうが、自分の名前を私に申しませんでした。しかし天国には、ある天使と他の天使、この天使とあの天使との間に、あまりにも大きな相違があることがよくわかりますので、私はそれをどう言ってよいかわかりません。

さて、私は金の長い矢を手にした天使を見ました。その矢の先に少し火がついていたように思われます。彼は、時々それを私の心臓を通して肺臓にまで刺し込みました。そして矢を抜く時、一緒に私の臓腑も持ち去ったかのようで、私を神の大いなる愛にすっかり燃え上がらせて行きました。痛みは激しくて、先に申しましたあのうめき声を私に発しさせました。しかし、この苦しみのもたらす快さはあまりにも強度なので、靈魂は、もうこの苦しみが終わることも望まなければ、神以下のもので満足することも欲しません。」

ローマのピットリア教会に納められている「聖テレジアの法悦」像（G.L. ベルニーニ作）は、この自叙伝に基づいて制作されたものなのである。

上に述べた“性の神聖性”を、端的に表現すれば、つぎのようになる（文献13）のであろう。

「男女の結びつき、性行為とは、実は礼拝の行為、神聖な行為であり、単なる肉体的快楽の源とか、相互の愛情と欲望の表現と考えられるべきものではない」

「男女の交わりの瞬間は、あらゆる被造物が神とのつながりを感じとる機会なのです」

§6 愛・性の意味

愛とは、E. フロムも述べている（文献14）ように、本来、自分本位のものではなく、むしろ相手の喜びを自分の喜びとみなす、利他的なものなのではないだろうか。このことは、性愛においても同じことであって、自分自身の快楽を追い求める行為であっては片手落ちであろう。そう考えると、冒頭に記した性行為の若年化は、マスコミなどの偏った情報に煽られた現象といえよう。

多くの動物たちと異なり、人は生殖年齢を過ぎた後も、性行為を続ける。その意味は、相手を癒すのみならず、己を知る行為といえるのではないだろうか。言い換えれば、あらゆる生命はひとつにつながったものであることに気づく行為、それが性だともいえよう。

このような考えはかつて異端とされたものであるが、今こそ再考する必要性に迫られているのではないだろうか。ガリレオ・ガリレイの言葉を借りれば、“それでも、地球は動く”と思うからである。

参考文献

- (1) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会（2002）「2002年調査 児童・生徒の性」学校図書
- (2) 日本性教育協会（2001）「若者の性白書 第5回青少年の性行動全国調査報告」小学館
- (3) 相賀徹夫（1987）「日本大百科全書13」小学館
- (4) 堀上英紀（2000）「生命科学からみた生殖器崇拜」法政大学教養部紀要 自然科学・社会科学編、第113・114号17-44頁
- (5) I. ゴールドスタイン（2000）「性機能障害の科学」日経サイエンス社
- (6) S. Cherry（1992）「a guide to SHEELA・NA・GIGS」National Museum of Ireland
- (7) J. Andersen（1977）「THE WITCH ON THE WALL」George Allen & Unwin Ltd
- (8) 鄭 廉（1984）「豫變紀略卷五」浙江古籍出版社
- (9) 長谷川明（1988）「インド神話入門」新潮社
- (10) 岩宮武二（1987）「岩宮武二写真集 ラダック曼陀羅」岩波書店
- (11) 金岡秀友（1983）「さとの秘密 理趣経」筑摩書房
- (12) 女子蹴足カルメル会訳（1991）「イエズスの聖テレジア自叙伝」中央出版社
- (13) R. ライル（1985）「スブド 内なる生命との出会い」めるくまー社
- (14) E. フロム（1987）「愛すること」紀伊國屋書店

Hideki Horikami
Sex Education and Sex Worship

（原生動物学・第一教養部教授）